

白老町の「ラブアースの森」

「ラブアース・クリーンアップ in 北海道」の関連事業の植樹として、カミネッコン（段ボール植樹柙）を使用して、2006年から2010年まで、白老町ウヨロ川中流部の砂利採取跡地で森林再生のための植樹が行われました。その植樹地は「ラブアースの森」と名付けられました。植樹は、北海道市民環境ネットワーク（きたネット）が主催し、ラブアース・クリーンアップ in 北海道実行委員会、NPO法人ウヨロ環境トラスト、北ぐにの森づくりサークル、そして、きたネットの個人会員、クリーンアップ活動を応援している企業の方々の参加で実施されました。残念ながら、植栽木の成長はあまりよいとは言えませんが、その植樹地には周辺のカラマツ、シラカバ、ハンノキなどから種が飛んできて苗が育ち、現在はそれらが大変混んだ状態で育っています。特に、カラマツは3m以上の高さになっており、除間伐が必要な状態です。



現在のラブアースの森



2006年活動開始当事



カミネッコン



ラブアースの森で



2010年度の最後の植樹



フットパスウォーク

【放置人工林の手入れの取り組み】

この「ラブアースの森」周辺には、植栽後手入れがされず放置されたままだったカラマツ人工林がたくさんあります。ウヨロ環境トラストでは、放置された人工林を拾い出し、所有者を調べて連絡をとり、同意を得られたカラマツ林の間伐を行ってきました。森林整備に至るまでには、所有者調査からはじまり、主に町外の所有者と交渉し、協定書を締結するという大変手間のかかる作業が必要でした。これらのノウハウをまとめた「放置人工林森林整備マニュアル」は、私有林を対象に森づくりに取り組みたい森林ボランティア団体の参考になるものです。一般に配付していますので、関心のある方はご連絡下さい。